

常盤塾議事録

日時：2016年12月10日（土）15：00～18：00

場所：新国際ビル MBFハウス

文責：常盤塾ライター 鈴木雅也、秋元裕太

メンバー：片平先生、常盤さん、松崎さん、松永さん、古城さん、今田さん、
大下さん、丸山さん、松山さん、白井さん、出井さん、鈴木

アジェンダ

1. 一分間スピーチ
2. 常盤さんのお話し
3. 松崎さんの発表 『弱者の戦略』

(1) 一分間スピーチ

・古城さん

日産のノートが一番に。ノートが売れる理由は「eパワー」。全部モーターで走る。モーターはなかなかパワーが出ない言われるが、乗ってみると素晴らしい。

電気系統で全てで制御されるので、最近頻繁に起こる高齢者の事故を防ぐこともできるのでは。ガソリンで電気を作るのは一見効率が悪そうだが、実は良い。

・出井さん

お子さんの熱が40度。最初の医者は、熱以外の症状がなくてそのまま帰らされた。それに対して、かかりつけの医師は匂いで気がついた。鼻が詰まっていた。プロの仕事は素晴らしいと感じた。

犬はがんの匂いがわかる。

・白井さん

今日畑をやってきた。ITの会社の人 coming。焼き芋をやってきた。最初掘っていたときはあまり美味しくなかったが、置いていたら熟成して美味しくなった。弱者の戦略にはまる出来事だった。

・松山さん

カジノ法案について。昔韓国に行ったとき、ヒルトン系のホテルにカジノがあったが、そのカジノは外国人しか行けない。なぜなら外貨を獲得するため。「今の日本にカジノが必要か」という疑問があった。

ギャンブル依存症の日本人は多い。イギリス人も多い。法案が通るかどうかをギャンブルすることも。ギャンブルは歴史もあるしその仕組みがすでに出来ている。

ギャンブルは生産的ではない。結局のところ、負けた人の「負」を通して勝った人がお金を稼いでいる。それは、日本という国のアイデンティティと異なるのでは。ラスベガスでも最近ではギャンブルが少なくなっている。

・大下さん

天災をどう減災するか。天気予報は毎日やっているが、外国の天気予報は必要ないのでは。天災について曜日ごとに報道するのはどうか。ゆくゆくは外国の天災の状況がどうなっているかを伝えるように。

・松崎さん

DeNAのキュレーションについて。サイバーとかリクルートとかもやっていた。それを叩いているが古参のメディア。メディア同士が叩きあっている構図。これはよろしくないのでは。お互いが監視しあうという意味もある。こういうのを悪用されるのが怖い。

・ 丸山さん

キュレーションに関して。朝日新聞に東大卒の新入社員が入らなくなった
今の新御三家はDeNA、グリー、サイバー。そもそもDeNAはソシャゲで巻き
上げてきていたところ。論理は最初の出発点が大事。頭の良さが全く違う方
向に行っているのでは。

昔、山崎パンはカビが生えないからおかしいという悪評があった。そのよう
なことを科学的に解明するサイトもあり、その要因は工場の衛生管理がすご
いことだと分かった。大企業だが職人気質の社員。全社員の6割くらいが正
社員。

特に食パンのところ。科学に裏打ちされた、優秀なパン職人を育てている。
ネット上の変な情報よりも、きちんとした会社でいるからトップ企業なので
は。頭の良さで変なことをするのではなく、会社として真摯な姿勢をとって
いるのが良い。

・ 今田さん

大阪に行っていた。施設のお父さんが「死にたい」と言っている。なぜかと
言えば、お父さんがいないことが寂しいから。お母さんも寂しいと言っ
て。施設に夫婦で入るケースが少ないがそれもありでは。アメリカとかは町
ごとシルバーの仕組みとかもある。

・ 松永さん

エコの展示会がビックサイトであった。オルタナの森さんが講演していた。
ビジョンとミッション。企業活動が第三者的視点で評価される仕組みが面白
い。デトロイトは、ダウンタウンがスラム化した中で、企業が人々にサービ
スしている。SNSによって評論することの世界が変わっている。裏でコント
ロールされない、書評のような嘘の入らない情報が評価される。企業ポリ
シーとかが滲み出てくるとみんなそういうところの惹かれるのでは。そうい
うところに気づける仕組みが必要。

仕事は外に出したらいけない。自分たち（社員）の思いを大切にしなければいけない。電通とか博報堂に丸投げすることは良くない。思いを伝えるのは第三者ではない。

・ 古川さん

人間はみんなで遊ぶのが二人称。日本かわいい賞。JA中野のきのこのキャラなど、きのこはもともと可愛くないのにそれを可愛くするのが面白い仕組み。インカレのきのこ大好きなサークルとつながっていて、そこでは。レシピとかグッズとかを作っている。

・ 片平先生

100周年企業について。哲学を持っていて、創業者が1990年生まれ＝おじいさんに育てられたとか、でっちとかの場合が多い。岡潔も祖父に育てられる。祖父の時代は江戸時代と30年くらいかぶっている。明治の香りを持った人に育てられかどうか重要。母親と父親は役割があって、セット。

(2) 常盤さんのお話し

- ・ 歩けなくなるのはすごく大変。どういうことかという、閉ざされた空間でしか生きていけないと外部の情報が入ってこない。常盤塾（雑談含め）こそが重要。人と接することができないと、早死にしてしまう。人と接すること、匂いを感じる事が大切。
- ・ 「歩くとは少し止まることか。」うまいことを言った丸山さんに座布団を上げたいが何かないか。せんべい布団という言葉があるので、今回せんべいを

持ってきた。ダジャレ的に物事を捉えれば、古城さんの世界観がある。自然に笑いが生まれる。学問を超えた世界で物事を捉えるのも良いのでは。

- ・「櫻」＝二階の女が気にかかる。字にはぬくもりがある。界面活性剤で均染剤。「染」という字は水が98%という形になっている。「儲」という字は人と人とが話しあるという形。「もの」というのは本当は惣ではないか。2年前の天声人語にはダジャレがあった。
- ・最近、動物や植物、昆虫にも関心がある。子供の心がすごいと感じる。ありの穴とかを眺めたり、大人の目の止まらないところに目がいく。その時、虫と自分自身とが一体になっている。人間は人間以外の生き物ともっと仲良くなるべきでは。人間が人間を研究することには限度があり、それが人間の範囲を超えることはない。人間以外の生き物にもっと関心を寄せることが大切では。人間という生き物は、生物の中心ではなく、その一つに過ぎない。霊長類の研究をしていた京都大学の学者が言うところには、自分が霊長類を研究するのはそういう理由だと。
- ・人間が地球上に進出したのは、たかだか10万年前の話。他の生き物は何億年も生き抜いてきた。その間には環境変化もあった。人間は環境の変化についていけるのかということのを他の動物から学ぶべきでは。「自然は我が師・我が友」というアプローチを考えるべき。コペルニクスは、地球が宇宙の中の小さな星であるということを書いて世界が変わった。宇宙へと目がいった。それと同じように、人間が他の生き物に注目することで視点が変わるのではないか。
- ・自然の中には、形而上の知と形而下の知がある。形而上のとは、自然への畏怖の念などを指し、自然を自分よりも大きいものとみなすこと。形而下とは、生き物の生態を研究すること。バイオミクス＝生態模写工学。そういう研究を、仕事や企業活動に結びつけることが欠けている面白い。「すごい」という段階で終わっているのが現状。
- ・彼岸花は茎しか出てこない。彼岸花の花が咲く時期、他の花は枯れているので受粉の機会が増える。受粉に葉っぱはいらない。
- ・昆虫137万は種類存在する。動物の中で数えると、ほとんどは昆虫。昆虫のほとんどは変態する。そのうち90%は成虫になると飛ぶ能力を持つ。なぜ変

態するか。最初は、なるべく効率よく食べるために葉っぱのあるところにある。それがさなぎを経て全く違う形のものになる。成虫になると、食料で得たエネルギーをもとに、活動範囲を広げるために羽を持つ。全く違う餌を食べるようになり、同じエサは食べない。

- ・生物は生き方に多様性が出る。多様性と圧倒的な数の由来。企業もどこかで変態する必要がある。（富士フィルムが良い例）花王もそう。最初は石鹸から。企業は蜂とかありとかの社会性も参考にしても良いのでは。コミュニティをどうやって形成しているか。何万年の中でシステムが作られ、そしてそのシステムが良いから続いてきた。
- ・人間は弱いものでも人一倍努力すれば良いと考えているが、自然の弱い動物は群れるとか擬態するとか様々な工夫をしている。動物の世界は決して甘いものではない。結果としての共同体。「経営とは人の営みである」そういうことはすなわち、人を知らなければならないということ。人間だけが生き物ではない。他の生き物を調べることで新しい生き方の理解につながる。
- ・西陣で、着物を着なくなってしまうか。パリとかに飛んで行って展覧会などに出展した。そうするとどこかから引かれることがある。例えばホテルにかけるからとか、予想しない需要が生まれる。その過程で、サイズとか機械とかの変態が必要になる。自分から世界に飛んで、先は見えないけど何かすることが大事。羽があつて初めて移動が可能になる。そうすると新しい視点が生まれる。無印とか、外国に日本人は一人しか行かない。
- ・子供は生き物と一体化しているから、童話とかに対して違和感がない。潜在的に生き物と同じという発想がある。今の小学校のクラスは、質問があるかと聞くとすごく手があがる。大人になるとそういうのがなくなってしまう。

(3) 松崎さんの発表 『弱者の戦略』

- ・企業でも種が切れるとダメ。ダメな時は一旦引くことも大事。雑草はいつぱんに出るのではなく、種がまだ地中に残っている。たけのこも横に成長する。

- アムステルダムでは、「一番良い医療を提供する仕組み」が作られている。「チェーンマネジメント」とは、たけの子に似ている。法的にはグレーだとしても、みんなが良いと言えれば広まっていく。現地では、余命何年を本人に伝える。
- 適応とは、動物の場合早く修復できれば良いという考え方。dnatとか壊されてもすぐ修復できれば良い。
- 生物は同じグループの中で裏切るという行為はあるのか。動物ではある。オスライオンは子供を殺したりすることもある。強いオスが繁殖するので、できないとメスになったり。ゲーム理論は白黒つくものしか理論にできない。情動が大事という考えが後回しになるなってしまう。
- 今の歌手は路上から出てきている。評論をしたり、人に作られたものが面白く無くなっている。SEKAI NO OWARIは共同生活をしている。昔を見れば、自動車を作る人たちも泊まり込みをして作っていた。
- 渋谷と丸の内の違い。渋谷は、ベンチャーがたくさん入ってリビングで交流するなど、一緒に生きている感覚がある。
- メルセデス。この企業が見ているのは、50年後のことだった。零細企業とともに生きることを見据えている。小さい企業はいつか大きくなる。リスクを踏まえて協力する。外国では小さい企業が、No.1であることが多い。対して、西陣。儲からないけれど、どうやって脱皮できるかを知って欲しいと思っている。
- 大企業でなければダメという話で終始しがち。ASEANでは「SME」がキーワード。